

(十一) 三沢村自由党三羽鳥

女部田梅吉・反町嘉平・萩原勘次郎は後に「三沢村自由党三羽鳥」と言われた人たちです。

女部田梅吉は事件当時三一歳、下三沢小平耕地の人。墓は三沢街道山側にあり、屋敷跡は県道反対側の三沢川の低地にあり、川側に梅ノ木と石積跡が残っています(本連載⑨に写真掲載)。

梅吉は三沢自由党の中心人物と見られ、蜂起前の一〇月一四日夜、田代栄助・新井周三郎らとともに横瀬村富豪への「資金強奪作戦」に参加(同夜栄助梅吉宅泊)、裁判では重懲役一五年に処せられ北海道の集治監に送られました。

職業の「石垣積」は、元々の手職だったとも、集治監で習得したとも言われています。秩父事件の前後かは不明ですが、梅吉は中三沢の小川茂作の弟子になり、この人から石積みの技術を習



女部田梅吉墓(下三沢小平)

ったと言われています。

「それまでの村内の石積みは、平積み、小石積みであったが、梅吉は大石積みを始めた。梅吉が積んだ石垣は決して崩れないと評判になり、千葉県成田市の成田不動(新勝寺)本堂への石

段右の石垣は、梅吉とその弟子たちによって築かれた。三沢には、梅吉と梅吉の弟子たちが築いた石垣が、今でも各所に残っている」

(梅吉の妻マサの親族・玉谷二郎氏談、飯島積「三沢村の秩父事件と女部田梅吉」)。

前記梅吉の墓はその弟子たちが、高瀬寺にある小川茂作の墓は弟子の梅吉たちが建てたものです。

反町嘉平(農・二八歳)は中三沢反町耕地の人。一〇月一四日夜、

女部田梅吉宅に来ていた田代栄助に勧められ自由党入党(「裁判言渡書」では井上伝蔵・高岸善吉等が組織する秩父困民党に加盟)。一〇月三二日夜一刀を腰にして下吉田に至り「火縄」等を集め、一旦帰宅。梅吉の勧誘により一

皆野町の秩父事件⑪

月三日、再び村内福田儀作他数十名を率い下小川陣地に行き、後、

落合寅市隊の坂本村侵攻に加わり、粥仁田峠で官兵の攻撃を受け敗走。処々に逃れたが、一二月四日熊谷

警察署に自首しました。重禁固五年の刑でしたが、明治二〇年八月

二〇日、熊谷監獄支所で獄死、熊谷寺に葬られました(後、大原の熊谷寺墓地に改葬)。享年三五歳。自宅西山側にある「嘉山平水居士」の嘉平の墓には遺骨は入っていないとの遺族の話です。

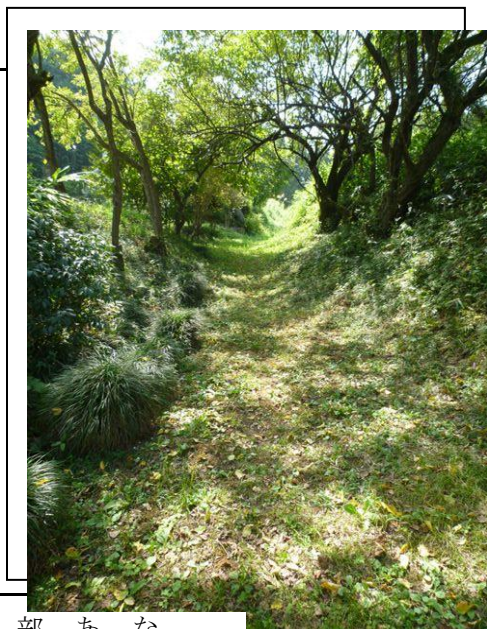
萩原勘次郎は中三沢五十新田の人。農・事件当時二三歳。一月一日、下吉田村役場での警官隊との攻防(青木與一巡査を捕虜にした)・架橋工事事務所から千葉土木技師を拉致した事件に関与、軽懲役八年の刑を服役中、一八八六年二月九日獄死。遺体は村上泰治と同じく浦和の厚生園墓地に葬られました(連載⑤の写真)。

秩父困民党の中で「剣」が最も強かったのは誰か。筆者は勘次郎か、新井周三郎(西ノ入村・元小学校教員・二二歳・甲大隊長・死刑)ではないかと思ってきました。勘次郎は定峰村の飯塚千太郎(『秩父の教育百年』によれば、寺子屋寺子数一〇〇人・神道無念流道場門人二〇〇〇人)の門人でした。飯塚道場門人は上州高崎から信州松本にまで及んだと言われます。



(曾根坂峠明治二十四年建馬頭尊)

石目は「剣術指南」でしたが、勘次郎は秩父の情勢を話し種々相談していますから、北相木への「秩父蜂起の連絡役」の一人であったことは間違いありません。



(曾根坂峠旧道)

新米議員のひとりごと

常山 知子

「こんにちは！赤十字です。」「変わりないですか？」と声をかけながら玄関をあけます。「お弁当を届けに来ましたよ。」部屋からでてきたおばあさんは、お弁当をうけとると、うれしそうに話し始めます。ゆっくりと話を聞いてあげられるといいのですが、少しの会話でその家を後にします。

きょうは、赤十字奉仕団の「一人暮らしの給食サービス」の日です。総合センターの調理室で、みんなで手際よくお弁当を作り、できたお弁当を地域ごとに2〜3人で一人暮らしで(75歳以上)希望する人に届けます。年3回、地域の見守りかねて給食サービスが行われています。

「もっと対象を広げて」という声もあります。

町からの依頼で、ヤクルトを届けながら声かけをしている人もいます。

地域の協力も大切ですが、行政のきめこまかい見守りも必要ですね。

